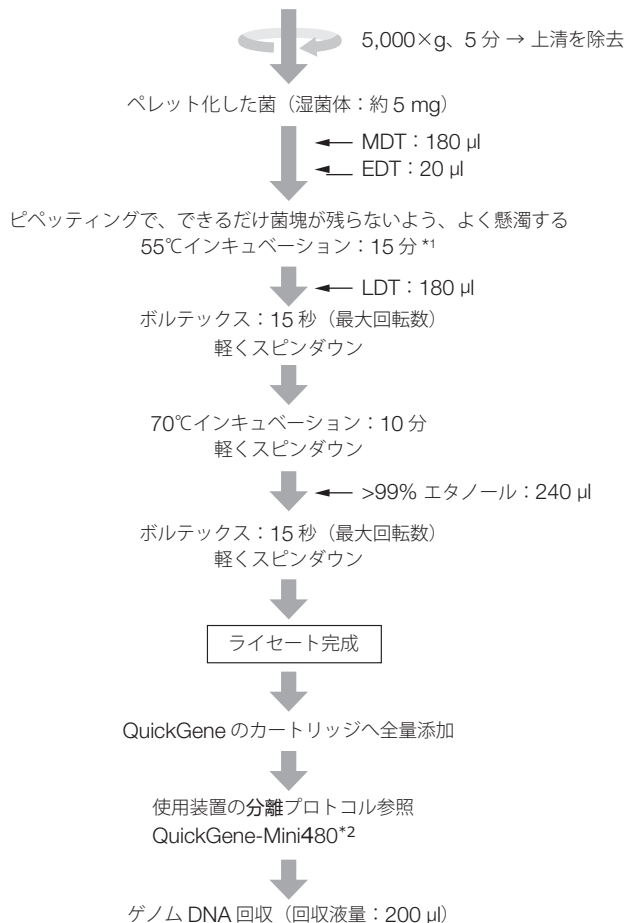


DF-5

# 淋菌 (*Neisseria gonorrhoeae*) からのゲノムDNA分離

## プロトコル

培養後の液体培地、もしくは寒天培地から釣菌した菌の懸濁液



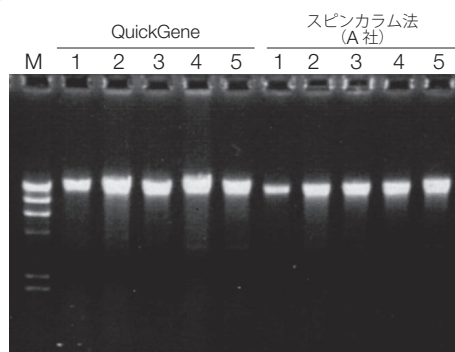
\*1 この時菌塊が残ってれば、ピペティングで菌塊を壊し、再度インキュベートする。

\*2 本事例は旧機種で取得したデータも含まれます。その他QuickGeneシリーズでもこのプロトコルをご参考頂けます。

## 結果

菌株：臨床分離株 No.1 ~ 5  
各湿菌体 約 4.5 ~ 6 mg から分離

### 電気泳動図



電気泳動条件：1.5% アガロース / 1 × TAE

M：λ -Hind III  
1：菌株 No.1  
2：菌株 No.2  
3：菌株 No.3  
4：菌株 No.4  
5：菌株 No.5

分離したゲノム DNA に分解は認められなかった。

## ■ ゲノム DNA の収量

| サンプル          | No.1   | No.2   | No.3    | No.4    | No.5   |
|---------------|--------|--------|---------|---------|--------|
| QuickGene     | 8.5 µg | 7.1 µg | 11.2 µg | 11.0 µg | 7.3 µg |
| スピнкаラム法 (A社) | 3.2 µg | 6.6 µg | 5.8 µg  | 6.5 µg  | 4.6 µg |

## ■ タンパク質の混入：A260/280

| サンプル          | No.1 | No.2 | No.3 | No.4 | No.5 |
|---------------|------|------|------|------|------|
| QuickGene     | 1.97 | 2.06 | 2.39 | 2.03 | 2.04 |
| スピнкаラム法 (A社) | 2.11 | 2.05 | 2.46 | 2.00 | 2.05 |

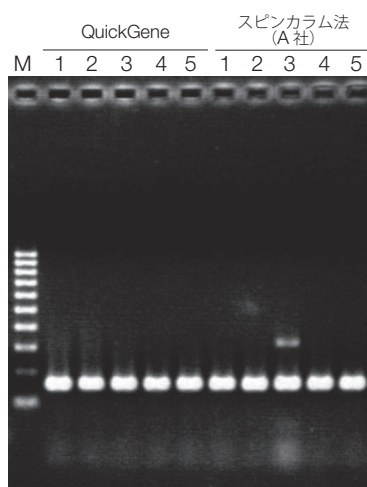
## ■ カオトロピック塩の混入：A260/230

データなし

## ■ その他

### ● PCR

QuickGene システムおよびスピнкаラム法 (A社) を用いて分離したゲノム DNA で、フルオロキノロン系抗菌薬のターゲットであるトポイソメラーゼIVのサブユニットの ParC 遺伝子の検出を、PCR により行った。



電気泳動条件：2% アガロース / 1 × TAE

M：100 bp DNA Ladder

1：菌株 No.1

2：菌株 No.2

3：菌株 No.3

4：菌株 No.4

5：菌株 No.5

いずれのゲノム DNA からでも PCR 産物を検出できた。

## ■ 共通プロトコルサンプル

ピロリ菌 (*Helicobacter pylori*)、緑膿菌 (*Pseudomonas aeruginosa*)